

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆書	隸書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
吟	ギン うたう うめく 常①		吟	吟		吟	吟	吟	吟
			吟					吟	
			吟						
			吟						
君	クン きみ 教3 常①	君	君	君	君	君	君	君	君
		君	君	君	君	君	君	君	君
		君	君	君	君	君	君	君	君
		君	君	君	君	君	君	君	君
		君	君	君	君	君	君	君	君
吳	ゴ くれ れる 常①	吳	吳	吳	吳	吳	吳	吳	吳
		吳	吳	吳	吳	吳	吳	吳	吳
		吳	吳	吳	吳	吳	吳	吳	吳
		吳	吳	吳	吳	吳	吳	吳	吳
		吳	吳	吳	吳	吳	吳	吳	吳
吾	ゴ われ 人①	吾	吾	吾	吾	吾	吾	吾	吾
		吾	吾	吾	吾	吾	吾	吾	吾
		吾	吾	吾	吾	吾	吾	吾	吾
		吾	吾	吾	吾	吾	吾	吾	吾
		吾	吾	吾	吾	吾	吾	吾	吾

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん ころ	通字体活字 明治41～ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
吟	吟	吟	吟	吟			吟	吟	吟	吟		吟 中国
吟	吟	吟	吟	吟								吟 台湾
吟	吟	吟	吟	吟								吟 香港
君	君	君	君	君			君	君	君	君		君 中・台・香
吳	吳	吳	吳	吳			吳	吳	吳	吳		吳 中国
吳	吳	吳	吳	吳			吳	吳	吳	吳		吳 台湾
吳	吳	吳	吳	吳			吳	吳	吳	吳		吳 香港
吾	吾	吾	吾	吾			吾	吾	吾	吾		吾 中・台・香

【吟】説文解字の大徐本の或体に偏が「音」に従う字と、「言」に従う字があるが、段注本では「言」に従う字が省かれている。旁が「金」の異体字が馬王堆にあり、五経文字に掲載され、康熙字典では古文としている。「今」と「金」は音が似ているので仮借かもしれない。

【吳】説文解字の大徐本では「姓也」、段注本では「大言也」とある。
【吾】石鼓文の字体は特異。「十七帖」と「争乱帖」では草書の崩し方(筆順)が異なる。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆書	隸書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
告	コク つける								
告									
吹	スイ ふく								
吹									
呈	テイ しめす								
呈									
吞	ドン のむ								
吞									
否	ヒ いな								
否									
吻	フン								
吻									

【吹】説文解字の口部には「嘘也从口从欠」、欠部には「出气也从欠从口」とある。別字でありながら字体が衝突した例か。
 【呈】「呈」と「呈」は異体字。説文に従えば「呈」が正字体。唐代の正字体は見えないが、康熙字典では「呈」を採用。慣用字体の中国での使用例は「呈」が優勢だが、日本では「呈」

が優勢。明朝期の字体は康熙字典以来、正字体の「呈」だが下部が「ノ+土」のものや「ノ+土」のものがある。中国が俗体と思われる字体を採用している。なお、『陸軍幼年学校用字便覧』では「呈」と「呈」を「實は別字」とする。
 【吞】「吞」と「吞」は異体字。説文解字に合致するのは「吞」。

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん ころこ	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考

中国や日本の慣用字体もほとんど「吞」を使っているが、あまり使われていない「吞」がJIS第一水準に、よく使われていて人名用漢字にある「吞」はJIS第三水準にある。「吞」はJIS第一水準ではあるが、常用漢字でもなく人名用漢字でもないため人名には使えない。

【否】説文解字の口部と丩部と同じ字体が載っている。どちらも「不也」と意味は同じ。
 【吻】説文解字の大徐本と段注本では或体の字体が異なる。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆家	隸書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
呆	ホウ ボウ タイ おろか あきれる								
吠	ハイ バイ ほえる								
呂	ロ リョ								
呂									
呼	コ よぶ								
昨	サク かむ くろう								
舍	シャ セキ え やどる								
舍									
呪	ジュ シウ のろ まじな まじない								
咒									

【吠】 旁を「友」や「友+点」とする字体もあった。
 【呂】 2010年(平成22年)に常用漢字表に追加された。「口+口」の字体と、「口」と「口」をつなぐ線がある字体「呂」の2種がある。中国では「呂」が出現するのは後漢の隸書だけで、その前後の時代は「口+口」の字体。説文解字の篆文は「呂」。

九經字様は「口+口」の字体を〈隸省〉としている。日本でも上代から平安にかけては「口+口」の字体。現代の「呂」は康熙字典の影響を受けていると思われる。中国では伝統的な字体に倣って「口」と「口」をつなぐ線がない「口+口」を書く。

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん ころ	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
		呆 呆 呆		呆			呆		呆			呆 呆 台湾 中国・香港
		吠 吠 吠 吠 吠		吠			吠					吠 中・台・香
		呂 呂 呂 呂 呂		呂			呂		呂			呂 呂 九經(説文) 中・台・香
		呼 呼 呼 呼 呼		呼			呼		呼			呼 中・台・香
		昨 昨 昨		昨								昨 中・台・香
		舍 舍 舍 舍 舍 舍 舍 舍 舍 舍 舍 舍		舍			舍		舍			舍 舍 舍 舍 舍 舍 舍 漢・武威漢簡 中・台・香
		呪 呪 呪 呪 呪		呪			呪		呪			呪 中・台・香

【呼】 初文には「口」がなかったようだ。
 【舍】 『IS漢字辞典』では「舍」が「口」部に、「舍」(第二水準)が「舌」部にある。
 【呪】 「咒」は「くちへん」の位置が動いた異体字(動用字)。日本では上代から江戸期まで「咒」の方が優勢。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆書	隸書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
咽	イン エツ・エン のど のむ むせぶ 常①		咽	咽			咽咽咽咽	咽咽咽咽	王勃詩序
							咽咽	咽咽	
							咽	咽	
咳	ガイ せき ①		咳	咳	咳			咳	龔賢指歸
			咳						
哉	サイ かな やか 人①		哉	哉	哉	哉	哉	哉	龔賢指歸
			哉	哉			哉	哉	
							哉	哉	
							哉	哉	
咲	ショウ さく 常①		咲	咲	咲	咲	咲	咲	龔賢指歸
笑	ショウ えむらう 教4常①		笑	笑			笑	笑	龔賢指歸
				笑			笑	笑	
							笑	笑	
							笑	笑	

平安中期 から 室町	江戸版本 1716年 部首・画数	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん ころこ	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
咽	咽	咽	咽	咽	咽	咽	咽					咽 中・台・香
咽												
咳	咳	咳	咳	咳	咳	咳	咳	咳	咳			咳 段注・口部 中国・台湾
												咳 段注・古文 香港
哉	哉	哉	哉	哉	哉	哉	哉					哉 干禄・序 中・台・香
咲	咲	咲	咲	咲	咲	咲	咲	咲	咲	咲	咲	咲 干禄(通) 中国・香港
笑	笑	笑	笑	笑	笑	笑	笑	笑	笑	笑	笑	笑 干禄(通) 台湾

【咽】2010年(平成22年)に常用漢字表に追加された。「大」は人が大の字になった形だが、脚を水平に広げれば「土」になる。「土」の頭をひっこめれば「工」になり、さらに「ユ」「コ」に変化する。

【咳】説文解字に「小兒笑也」とある。いつから意味が変わっ

たのだろうか。大徐本と段注本で字体がわずかに異なる。
【咲】「咲」と「笑」は異体字。中国では「咲」と「笑」を「笑」に統合。説文には「笑」しかないが、十七帖の字体は明らかに「咲」をくずしてあり、古くから「咲」に近い字もあったのかも。康熙字典では「咲」を「笑」の古文とする。江戸期

の版本の『大日本永代節用無尽蔵』には「咲」に「わらう」と振り仮名がついており、「笑」と「咲」の使い分けははっきりしていない。陸軍幼年学校用字便覧では「咲ハ多クサクトイフ時ニ用イラル」とあり、大正に入った頃には使い分けがあったようだ。大徐本と段注本では字体が異なる。顔真卿の

書による干禄字書は「竹+大」を〈正〉とし、「咲」を〈通〉としている。江戸期の官版の干禄字書では〈正〉が「竹+犬」になっている。五経文字は「竹+犬」になっている。九経字様では「笑」と「竹+犬」の字体の2種が載っている。漱石は「竹+大」と「竹+犬」の2種の字体を使っている。